

日韓市民ネットワーク・なごや

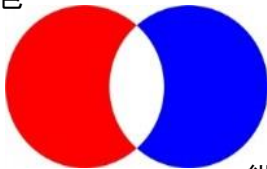
会報 No. 86
2019-5-28

한일 시민 네트워크 · 나고야

発行者：後藤 和晃
〒483-8037 愛知県江南市勝佐町東郷 238
TEL/FAX 0587-56-6788

Home Page: <http://home.m00.itscom.net/nikkan/index.html>

朱色



紺青

目次

- 1 事務局通信
- 2 ニュース
- 3 お知らせ
- 4 トピックス
- 5 会員の便り
- 6 編集後記

統括幹事：後藤和晃
事務局
事務局
事務局
会員の皆さん



事務局通信 사무국 통신

事務局・統括幹事 後藤和晃

1. 戦後、最悪の日韓関係の中で ～元済州大学総長趙文富先生の提言～

去年 2018 年の 10 月以来、韓国各地の法廷で日本企業に対し賠償を命じる「徴用工判決」が相次ぎました。この問題では 1965 年の日韓請求権協定ですべて解決済みとする日本政府と、判決を重視する韓国政府との見解は互いに相入れず、双方の関係は氷りついたような状態になっています。こうした状況は、民間の交流にまで大きな影響を与えており、日本から韓国を訪れる観光客は 10 年ほど前と比べると大幅に減少してきています。

戦後最悪の日韓関係と言われている中で、この 3 月、韓国の済州島で国立済州大学の元総長趙文富先生が訪問した日本の青年グループと島の青年たちを前に、傾聴すべき提言をされましたので、ぜひ皆さんにお伝えしたいと思います。

内容に触れる前に趙先生の経歴や、私たちの団体との関係を簡単に述べておきます。

趙先生は 1935 年生まれで現在 83 才です。ソウル大学の法学部を卒業した後、東京大学の研究員として日本の法律や行政学をマ

スター、韓国随一の行政学の大家となり、1997 年に済州大学の総長に迎えられました。



私たちの団体が、済州島の数奇な歴史を学ぼうと島を訪れたのが 2004 年の暮で、趙先生をはじめ新聞記者や文化人の皆さんに歓迎してもらいました。そして翌年、愛知万博の時には、趙先生ご夫妻を名古屋に招

待させてもらうなど交流を重ねてきました。その趙先生は、日韓の青年たちに二つの提言をされました。

まず、最初の提言は「過去や今、現在にこだわりすぎて、未来を語ることを忘れないで欲しい」というものでした。この言葉は、一見、韓国の青年たちに向けての提言のようにも見えるものの、むしろ日本人一般への警告を含んでいるように思います。というのは、去年、日韓の間を 1000 万人を超える観光客が往復したと言われていますが、そのうち、4 分の 3 に当たる 760 万人は韓国からで、日本からの観光客は 300 万人にも上りませんでした。韓国人に比べて、一般の日本人が大切な隣国に対する関心を失い、未来を語り合う意欲を失っているように思えてなりません。趙先生の二つめの提言は、次のような韓国の古い諺でした。

「行く言葉が美しければ、帰ってくる言葉も美しい」



愛知万博当時の趙ご夫妻

(カヌン マリ コワヤ、オヌン ヌリ コプタ!)

これは対人関係を保ってゆく上での素晴らしい諺ですね。相手の立場や背景にある歴史や文化を考えながら、対話すれば穏やかな人間関係、ひいては、良き隣国関係を保てるという事でしょう。

「売り言葉に買い言葉」です。

一方が、けんか腰で文句を言うと、相手も一切、妥協せず論争が際限なく続くという意味でしょう。これでは、互いの関係が、ささくれ立つだけで、対立は解消できません。

日本人も韓国人も知り尽している趙先生の二つの提言を、ぜひ生かして行きたいものです。

一つは、「過去や今、現在にこだわりすぎて、未来を語ることを忘れないで欲しい！」

もう一つは、「行く言葉が美しければ、帰ってくる言葉も美しい！」

(カヌン マリ コワヤ、オヌン ヌリ コプタ!)
趙先生の提言をかみしめながら、私たちは韓国の友人たちとの対話を重ねて行こうではありませんか!?



韓国紙面にも両国関係改善の願いが・・・

実は、日本には韓国の諺と正反対の意味を持つ諺があります。

2. 水崎翁追慕祭、肅々と ～韓国大邱市・寿城池～

4月12日の朝、大邱市の寿城池の傍らで“大邱農民の恩人”と、今日も、なお称えられている岐阜市出身の水崎林太郎翁の追慕祭が開かれました。



今年の追慕祭

岐阜市の住民、水崎翁が大邱に移住したのは104年前の1915年のことでした。翁は大邱の農民が日照りと水不足に、あえいでいる状況を目の当たりにして、農業用の大貯水池の必要性を痛感します。そこで地元農民の代表たちと共に挑戦総督府への陳情を繰り返した末、補助金を引き出し、ついに1927年(昭和2年)、巨大な寿城池を完成させ、その池の水

で1000ヘクタールもの水田や畑を潤おす事業を成し遂げたのです。

池の完成から92年、水崎翁が逝去してすでに80年もの年月が経過し、しかも日韓関係が戦後最悪と言われている中でも、寿城区の市民たちから成る韓日親善交流協会(李東根会長)の主催で、今年も追慕祭が肅々に行われたことに、大きな喜びを感じました。

式典では主催者などの挨拶の後、寿城区民たちに続いて、釜山の日本領事館の道上総領事を始め、日本各地からの参加者が次々と白い花を墓前に捧げました。

その中には、今回初めてグループで参加したという岐阜民団の董勝正(トンスンジョン)団長ら5人の方々や長野市の善光寺の僧、若麻績(わかおみ)眞海師の姿もありました。若麻績師は日韓の良好な関係を願っている仏教者として、供花の後、水崎翁の墓に朗々と読経を捧げていました。水崎翁の故郷、岐阜市では翁の業績がほとんど忘れられてきていましたが、岐阜民団などの協力の元に、翁の記憶を取り戻して行く試みを加速したいと思いました。



善光寺・若麻績師



岐阜民団の皆さん



寿城池は今
250万都市のオアシス

来年の追慕祭には大勢で！！

来年 2020 年の追慕祭には、日韓の民間交流の活性化のため、できるだけ多数で大邱市を訪問したいと考えています。追慕祭の他、文禄の役の際、朝鮮軍に降り、鉄砲の技を、彼の兵士たちに教えた功績で朝鮮王から朝鮮名（金忠善）と領地を賜った日本人武将、沙也可の里や、世界一美しいとされる石仏がある仏国寺なども訪ねます。旅行中には、随所で現地の人々と交流できるよう予定します。



十二代金氏と日本人たち



沙也可を祀る堂（大邱市友鹿里）

3. 第 22 回総会と交流会

2 月 28 日(木)の午後、名古屋市国際センターの会議室で第 22 回総会を行ない、2019 年度の行事予定や事務局体制などを決めました。(決定事項は、後のページに掲載します。)

総会の後は、会場を名古屋駅前のコハクビル 2F のイタリア料理店ゼンゼロに移し、会員や協力者など凡そ 45 人での交流会を行ないました。

このコハクビルやイタリア料理店のゼンゼロは永い間、私たちの団体を支援して頂いた、愛知民団の大功労者、故鄭煥麒顧問が所有されていたもので、かつては例年のように交流会をさせて頂いていました。しかし鄭顧問が 2016 年の年末に逝去されたので、2017 年と翌年の 2 回は、ゼンゼロの利用を遠慮してきましたが、今年は鄭煥麒さんのご子息で会員になって頂いている鄭博さんのお許しの元に、交流会を実施したものです。

交流会には、駐名古屋韓国総領事館の鄭煥星総領事も参席され「日韓の関係が最悪とは言われているが、去年韓国から日本を訪れた観光客は、760 万人もいた。

韓国人は日本との友好を願っているのです。」と挨拶され

ました。

また、京都在住の韓国人女性美術家のベ・サンスンさんも出席し、彼女が研究テーマにしている“戦前の大田に住んだ日本人”の記録映像を上映するなど充実した交流会になりました。



鄭煥星総領事



ゼンゼロでの交流会





なお、2月28日は総会と交流会の双方で、京都在住の韓国人女性美術家、ベ・サンスンさんの企画で1月13日に京都・立命館大学で開催されたイベント(記録されぬ人々～植民地大田の日本人)の概要が動画などで紹介されました。

会報では動画を載せることはできないので、1月のイベントを記録した写真をお見せします。当日は、韓国・大田市の職員コ・ユンス氏が「朝鮮半島から満州に至る東アジアを統治するためには、鉄道の敷設が絶対条件」という明治の元勲・山縣有朋の方針の元に、小さな農村だった大田に鉄道網建設の基地として多数の日本人が移住した歴史や、そこに移り住んだ日本人たちの敗戦に至るまでの暮らし、そして現地の人たちとの人間関係などが詳しく紹介されました。以下の写真でイベントの雰囲気を推察ください。

また、1月11日付けの新聞記事は、会員の森田真奈子記者(中日新聞・大津支局)が書いたものです。



立命館大学でのシンポジウム

近江商人と韓国 交わる歴史



大田市は韓国中心部にあり、現在は人口約百五十万人、もともとは人口の少ない農村地帯だったが、一九四四年は鉄道駅の建設に伴い、日本人が移住して日本風の都市を形成、一五年までは日本人の人口が、現地の朝鮮人を上回っていた。

大田には洋品店や呉服店、電機店など、近江出身の商店も多かったことが分かってきている。中でも、大塚村(現彦根市大塚町)出身の辻達之助

植民都市大田の成り立ち紹介

(二八八一―一九三三) してきた表さんが、大田生れ、現住人口約百五十万人、もともとは人口の少ない農村地帯だったが、一九四四年は鉄道駅の建設に伴い、日本人が移住して日本風の都市を形成、一五年までは日本人の人口が、現地の朝鮮人を上回っていた。

大田には洋品店や呉服店、電機店など、近江出身の商店も多かったことが分かってきている。中でも、大塚村(現彦根市大塚町)出身の辻達之助



大津支局 大津市東町四丁目 電話 077-320-3888 FAX 077-320-4447
彦根支局 彦根市本町二丁目 電話 077-320-3234 FAX 077-320-5112
京都支局 京都市中京区 電話 075-221-0800 FAX 075-221-0800



4. 第22回総会と決定事項

2018年度 活動報告

年	月	日	予 定 行 事	備 考
2018	4	13(金)	水崎林太郎翁追慕祭 ～大邱市・寿城池～	子孫・顕彰 会員ら参加
		28(土)	交流史講座『知られざる大国・渤海の五京』 ① 旧国・敦化の遺跡群	講師 西谷正先生
	5	26(土)	講座『知られざる大国・渤海の五京』 ② 中京顯徳府・東京龍原府	講師 西谷正先生
	6	24(日)	講座『知られざる大国・渤海の五京』 ③ 上京龍原府の遺跡	講師 西谷正先生
	7	28(土)	講座『知られざる大国・渤海の五京』 ④ 南京南海府・西京鴨緑府	講師 西谷正先生
		29(日)	講座『知られざる大国・渤海の五京』 ⑤ 古代日本と渤海の交流	講師 小島芳孝先生
	8	2(木) ～6(月)	韓国・大田学生交流団を招待（忠南大学生7名） *奈良一泊バス旅行とホームステイ	引率 朴淳発教授
	9	3(月)	韓日歴史フォーラム 「高齢化する在日の現実と向き合って」	講師 田内基氏
		17(月) ～24(月)	知られざる大国・渤海の五京紀行 *大連・ハルビン・牡丹江・敦化・延吉・旅順	引率 西谷先生
	10	26(金)	韓国・天安市「望郷の丘」での 会顧問 鄭煥巖 琥珀会長三回忌	後藤参加

2019	1	13(日)	京都立命館大で『記録されぬ人々～戦前の大田の日本人』 *企画 ベ・サンズン	会員参加
	2	28(木) 15:00～ 17:00～	第22回日韓市民ネットワーク・なごや 総会 名古屋国際センター3F第1研修室 交流会 名古屋駅前コハクビル2Fゼンゼロ	会員・協力者等 参加



総会の風景

2018年度(平成30年) 会計報告書

自 2018年1月1日 至 2018年12月31日

【収入の部】		【支出の部】	
項目	金額	項目	金額
前期繰越金	553,480	通信費	75,880
		印刷・コピー代	82,986
年会費	272,000	事務用消耗品費	64,778
参加費	164,500	日韓交流関係費	356,358
寄付金	278,500	ホームページ運用費	0
助成金	0	会場・会議費	4,770
受取利子	10	協力者謝礼	80,804
		交通費	25,610
次年度仮受金(総会参加費)	59,000	手数料	6,875
次年度仮受金(年会費)	4,000	次年度仮払金(総会会場費)	9,000
講座特別会計取崩収入	303,372		
		次期繰越金	927,801
合計	1,634,862	合計	1,634,862

※会費内訳:68名 272,000円(前年比▲11名 ▲42,000円)

※次期繰越金:927,801円(前年比+374,321円)

内訳(講座特別会計取崩+303,372円,仮受仮払差額+54,000円,会計収支+16,949円)

平成 31年 2月 13日

以上の通り、2018年度の決算を報告いたします。

会 計 早間 敏夫



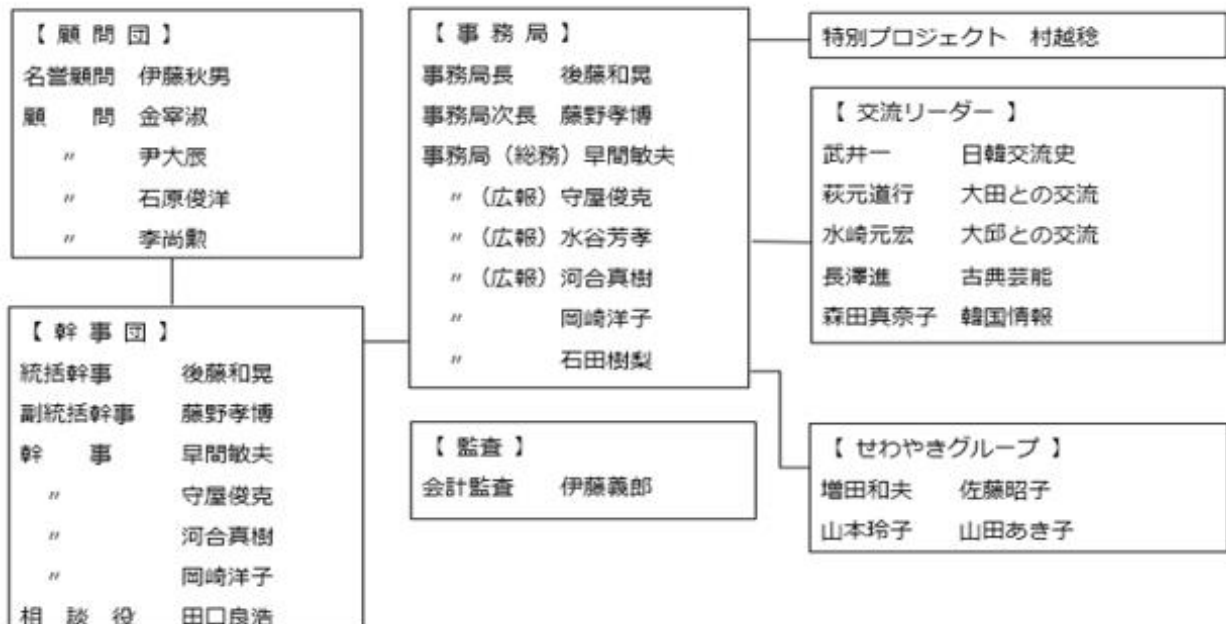
平成 31年 2月 14日

監査の結果、正確かつ適正であることを認めます。

会計監査 伊藤 義郎



2019年度「日韓市民ネットワーク・なごや」組織表



2019年度 活動予定

年	月	日	予 定 行 事	備 考
2019	4	8(月)	交流史講座『日本の渡来文化を追う』	講師
		15:00～	① 強大国・高句麗からの渡来文化	西谷正先生
		12(木)	水崎林太郎翁追慕祭	子孫・顕彰
		11:00～	～大邱市・寿城池～	会員ら参加
	5	22(水)	講座『日本の渡来文化を追う』	講師
		9:30～	② 栄光の文化大国 百済の渡来文化～1	西谷正先生
	6	12(水)	講座『日本の渡来文化を追う』	講師
		15:00～	③ 栄光の文化大国 百済の渡来文化～2	西谷正先生
	7	10(水)	講座『日本の渡来文化を追う』	講師
			④ 新興武力国家 新羅の渡来文化	西谷正先生
	未定	韓国学生交流団を招待 ※交流団来ない時 奈良一泊バス旅行とホームステイ “交流の集い”実施		
8	14(水)	講座『日本の渡来文化を追う』	講師	
	15:00～	⑤ 一衣帯水の国 伽耶からの渡来文化～1	西谷正先生	
9	4(月)	講座『日本の渡来文化を追う』	講師	
		15:00～	⑥一衣帯水の国 伽耶からの渡来文化～2	西谷正先生
		12(木) ～17(火)	日韓交流史紀行『高句麗壁画古墳を訪ねて』 *北朝鮮各地	講師 西谷正先生
2020	2	未定	第23回 総会と交流会	会員・協力者

ニュース ニュース

ニュース 愛知民団の新会館オープン ～4月6日に披露パーティー～

愛知民団は、老朽化した、これまでの民団会館を取り壊し、中村区井深町の韓国学校の跡地に新会館を建てる工事を行っていましたが、この4月6日、新会館の完成を祝う披露パーティーを盛大に行いました。

2階にある広大なホールには、来賓や団員など200名以上が参加し、会館の完成を祝いました。

挨拶に立った朴茂安団長は「愛知民団は、この新会館を拠点として在日同胞の民生の安定と生活権の拡充にいつそう、まい進します。さらに韓日の友好、親善も、これまで以上に努めます！」と、挨拶、拍手を受けていました。

なお新しい韓国学校も新会館と隣接して建てられ、授業が再開されています。



愛知民団・新会館



朴茂安団長



新韓国学校



教室の他、芸能室、図書室も



알림
お知らせ

西谷先生と行く“北朝鮮・高句麗壁画古墳の旅”参加者募集

今年の9月半ばに、高句麗の歴史遺産を世界遺産に認定した西谷正先生が企画し、福岡の日中友好旅行社が手配する旅行(下記参照)があります。下記の要項は、旅行社が制作したパンフの写真や原文を、当会で若干、分かり易く手直したものです。従来の私たちの旅行に比べ、驚くほど費用がかかる見込みではあります。これは旅行地が、北朝鮮という特殊な国である上、特に貴重な壁画古墳、3ヶ所の石室に入ることを条件としているためです。

旅行では、平壤周辺の古代遺跡から高麗時代の首都だった開城一帯の古墳まで、北朝鮮国内の歴史遺産の数々を、自分の目で確認することができます。参加希望者は事務局後藤(Tel 0587-56-6788)に連絡されますと、旅行社作成の申込書を送らせていただきます。



平壤



真坡里古墳群



華麗なる壁画古墳たち

天井まで壁画が・・・

北朝鮮高句麗壁画旅行

企画：高句麗会

第2回 高句麗・高麗の遺跡を訪ねて (D案：名古屋発着)

訪問日程：2019年09月12日(木)～09月17日(火)

5泊6日間

日次	発着地名	発着時間	交通機関	活動内容	宿泊先
1 2019年 09月12日 (木)	名古屋 北京 北京 平壤	08:45発 11:20着 13:35発 17:00着	CA160 (国際線) JS252 (国際線定期便)	名古屋：集合07:00【中部空港国際線ターミナル出発ロビー】 中国国際航空(CA160便)名古屋08:45/北京着11:20 13:35 北京より高麗航空252便(定期便)で平壤へ 到着後、ホテル投宿、夕食など	平壤泊
2 (金)	平壤 滞在		専用車 (貸切バス)	※見学訪問行程は現地で接待先朝鮮国際旅行社と協議 1)平壤(萬寿台・安鶴宮跡・大聖山城・大聖山麓古墳群)	
3 (土)	平壤 滞在		専用車 (貸切バス)	2)平壤郊外(檀君陵・コムンモル旧石器遺跡・真坡里 古墳群—東明王陵・定陵寺) ※開城泊	
4 (日)	平壤 滞在		専用車 (貸切バス)	3)開城(清月台・王建康・高麗博物館・靈通寺)及び板門店見学 ※沙里院(正方山城)・大興山城・安岳3号墳など	
5 09月16日 (月)	平壤 滞在		専用車 (貸切バス)	4)平壤→江西(徳興里古墳・江西大墓) 5)平壤(朝鮮中央歴史博物館・楽浪土城・古墳公園) ※表敬訪問：社会科学院歴史研究所・社会科学院考古研究所	
6 09月17日 (火)	平壤 北京 北京 名古屋	09:30発 10:30着 15:50発 19:50着	JS151 (国際線定期便) MU743 (国際線)	午前：平壤より高麗航空151便航空機にて北京へ 着後、北京空港から帰国の途(名古屋)に着く CA159便：北京発16:45/名古屋着19:50 20:50頃解散、帰宅の途へ	

ご利用航空会社：中国東方航空(MU)・朝鮮高麗航空(JS)

※参加費用：お一人様につき320,050円 概算(参加者10名以上の場合) ※個室利用40,000円

この他、古墳三ヶ所の見学料4万8000円が必要です

☆現地でのオプション追加費及び咨礼実費用は含まれておりません。必要に応じてご案内します。

※宿泊：平壤/高麗ホテル(5泊)平壤市中区域蒼光通り東興洞 TEL0850-2-381-4397☆☆☆☆(予定)

お問合せ先：エフ・ジェイ・シー商事(株) 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4-13-27 808室
(旅行手配) (株)日中友好旅行社 博多駅前営業所 (福岡県知事登録 旅行業第3-537号)
TEL092-292-8056 FAX092-292-8058 担当：西尾 武文

(旅行手配) (株)日中友好旅行社 博多駅前営業所



盛り上がった韓国フェスティバル

4月20日(土)と21日(日)の両日、名古屋市栄の久屋大通公園で、駐名古屋韓国総領事館の主催で韓国フェスティバルが開かれ、好天にも恵まれて、連日大賑わいでした。

このフェスティバルの目玉は、韓国の男性アイドルグループ“アストロ”の歌と踊りでした。日本でも人気があるグループ・・・という前評判通り、前日から徹夜したファンの列が長く伸び、公演が始まると、お目当ての歌手の名を叫ぶ若い女性の姿が目立ちました。



アイドルグループ アストロの舞台

会場に押し寄せた人たちは肩と肩を、ぶつけあいながら、トポッキやキムチなど韓国食品や焼きそば、アイスクリームの店などを探して歩いていました。

20日間で来場した韓国ファンの数は、前年度を3万人も上回る13万人となり会場を見る限り「戦後、最悪の日韓関係！」という状況が信じられないほどでした。

初日には、愛知県の大村知事や名古屋市の河村市長も会場を訪れ、一般客と握手しながら「日本人と韓国人は仲良くしなくちゃ！」と笑顔で声をかけていました。



회원의 소식 会員の便り

満州延吉から引揚げ、木曾開田高原暮らしに戻る 村越 稔 (会特別プロジェクト担当)

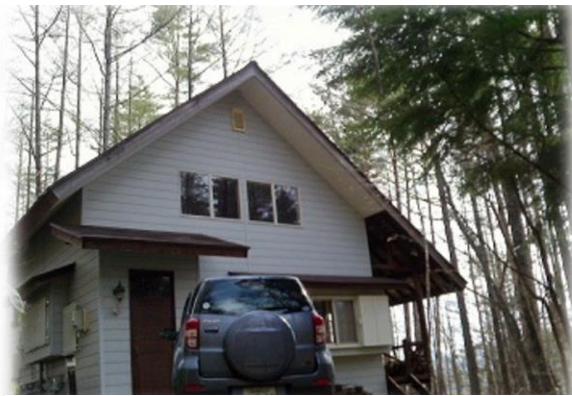
昨年9月の渤海歴史ツアー参加を含めて、中国東北隅の延吉で9ヶ月暮らし、4月には大邱での林太郎追慕祭に関連して、絵本「スソモ」の出版社崔社長と朴天秀先生にお会いしました。大田市史には辻醸造所の記載があるのに対し、大邱市史には林太郎や寿城池について言及されてないため、改定の際に記載してもらえないか、お願いに上がったものです。そして韓国語の試験を受けて、御嶽山麓の山荘暮らしに戻りました。やまゆり荘という露天風呂のすぐそばです。

開田は5月になってもまだ寒く、ストーブとコタツが必要です。しかし桜は満開で、久しぶりに眼デジ2台を持ち出して撮影しました。

昨年は日韓関係が手詰まりの状態になり、災害も多い年でしたが、新しい元号になり、こういう写真を見ながらまた明るい世の中になる希望をもって、日々精進して行こうと思います。



背景の山は御嶽山



村越氏の山荘



事務局後記 사무국후기

事務局

今年、大邱農民の恩人と称えられた岐阜出身の水崎林太郎翁が亡くなってから、ちょうど80年目にあたります。このタイミングで故郷岐阜市に水崎翁の顕彰碑を建設する運動を始めたいとする動きがあります。決定したら会報でお知らせします。

編集 応援(非会員)中川修介